

6 終わりに

今回、鋼構造に関する国際規格調査小委員会の活動としてカナダおよびアメリカにおける技術標準の国際化に関する北米調査を実施した。設計/施工基準類の策定に関わっている関係機関を直接に訪問し、基準の背景、その現状、新しい動向および国際標準への姿勢などについて質問状を基本にインタビューするとともに活発な意見交換を行い、大変有意義な情報を得ることができた。

調査訪問したカナダの Public Works and Government Services Canada (PWGSC)、アメリカの Federal Highway Administration (FHWA)、Steinman/Parsons Transportation Group、Lehigh 大学さらには National Railroad Passenger Corporation (Amtrak) の各機関においては、我々の調査目的に配慮した用意周到な準備をしていただくとともに、自由な情報交換ができる会議環境を整えていただいた。このような心温まる対応に感謝を申し上げる次第である。会議では、北米側の情報を収集するだけでなく、日本側からも依田照彦団長、(株)宮地鐵工所の鬼頭省吾委員および(株)横河ブリッジの高森博之委員から土木学会活動、わが国の設計/施工基準の動向、鋼構造分野のトピック的研究紹介、さらには産業界事情などのプレゼンテーションを行うことにより、相互の情報交換に努め友好を深めることができた。贈呈いただいた貴重な資料については、種々の機会において随時公表していく予定である。

世界的なグローバル化の状況において、技術標準のグローバル化に関しても活発な議論が展開されているこの時期に、カナダの CHBDC、アメリカの AASHTO/LRFD および ISO 規格などの最新情報を中心に報告書にまとめられたことは、当初の目的を充分達成できたものとする。本報告書が、わが国の設計/施工基準類に関心をお持ちの方々には何らかの一助になれば幸いです。

最後に、今回の北米調査を実施するにあたり、本小委員会の委員である山口栄輝九州工業大学助教授にはカナダの設計規準に関する訪問先をご紹介いただいた。また、アメリカの鉄道の設計規準に関する訪問先については、鉄道総合技術研究所の松本信之氏にご紹介いただいた。さらに、土木学会技術推進機構・ISO 対応特別委員会(委員長 長瀧重義 新潟大学教授；国土交通省、農林水産省委託)には、鋼構造担当幹事で本小委員会の委員でもある前田研一東京都立大学教授が本調査団に参加し、旅費の一部を助成していただくとともに、本報告書を会誌「土木 ISO ジャーナル」(Vol.7、平成 14 年 3 月号)の付録として掲載するご配慮をいただいた。ここに、これらの労に対して調査団を代表して心より厚く感謝する次第である。

平成 14 年 1 月

土木学会鋼構造委員会
鋼構造に関する国際規格調査小委員会
幹事長 野上邦栄